





















# 世之主神社の祭神について

西暦一四〇〇年頃琉球には中山、北山、南山の三王が割拠し、本島は北山の領分でもあった。当時、この祝宴の祭神を各村において祭神にまつしめ、特に當年北山王に参拝することを例とした。またまた上記の祝宴が姫を伴って王に参拝した。王はこの姫の容色を愛し納れて妾御とした。中に王子を生ませ、これを真松千代と命名した。真松千代が成長してゆく。良部の世之主となった。世之主は始め玉城の金の塔(ふじと)に館を構えていたが、後竹孫八に今じて内城のこの地に城を築かせてここに移った。当時琉球において北山、南山共に中山に攻め滅ぼされていた。世之主は頼りない神永良部でうつつと悩まされた。世之主は頼りない神永良部でうつつと悩まされた。海に東航した。これは、さき中山王の軍船である。と考え遣いし、小島をもつて大園には航し、さしと直ちに奥方を始め橋子と築き立てて自守された。伝えられている。この神社は星城跡に明治四年に建立されたものであり、昭和三十一年コンクリート造りに改築された。

和泊町指定文化財(史跡)和泊町教育委員会

















## よ の め し の ほか 世之主の墓

琉球式墓。岩壁を掘り込んだトゥール墓で歴史上貴重な文化財であり、県指定文化財になっています。第一石門にはいると一面芝生の庭で昔はここで宴が催されていました。第二石門に入ると狭い庭で、祭典場でありました。その奥に珊瑚礁の岩を掘りとり、穴にした納骨堂があります。中央に右から15世紀、応永2年ごろ島主として沖永良部島を治めていた世之主加那志、嫡子、奥方の瓶が安置され、四隅に主君を守るかのように四天王の瓶が安置されています。築造年は、不明です。

トゥール墓は、15世紀半ばから普及したと推定され、石工は沖縄から招かれています。人間は死ぬと元へ帰るという琉球の思想に基づいて、墓全体が女性の股間を型どってあるといわれています。

### The Yononushi's Grave

This is an Okinawan style grave, known as a tuuru, where the vault is carved into a wall of rock. It is culturally and historically a very important site and it has been designated as a Prefectural Cultural Asset. Once you go through the first stone gate there is a lawn, where banquets used to be held in olden times. Through the second gate, there is a narrower garden, where rituals were held. At the back there is a vault cut into the coral wall. From the right are the funerary urns containing the remains of Yononushi Ganashi, who ruled Okinoerabu during the 15th Century, his son and wife. In the four corners are statues of the Four Devas, to protect the King. It is unknown when the grave was built.

It is presumed that the practice of stone tuuru graves spread from Okinawa in the 15th Century. The shape of the grave represents a womb, this is because according to Okinawan beliefs, when people die their return to their origin.

### 世之主的坟墓

这是属琉球风格的坟墓。它是将岩石中间挖空后制成的墓穴（本地人称之为“图鲁”墓），是珍贵的历史文化遗产，也是县政府指定的重点保护文物。进入第一道石门，有一片较大的草坪，旧时在此举行宴会。进入第二道石门，有一个院子，是举行祭祀仪式的地方。在其旁边还有一个将珊瑚礁岩石挖空而成的纳骨堂。纳骨堂中央，从右往左依次安放着装纳1392年前后统治冲永良部岛的岛主世之主加那志及其嫡子和尊夫人遗骨的瓮子。四个角落分别安放着四大天王的遗骨瓮，俨然像下人守卫着其主公一样。坟墓的建造时间不详。

据推定，15世纪中叶“图鲁”墓开始在岛上盛行。建造墓穴的石匠都是从沖縄请来的。传说这种墓是基于“落叶归根、人死还魂”的琉球思想，仿照女性的股间的外型而建造的。

この案内板は、那覇市総合センターから受託して那覇市歴史博物館の協力を得て作成されたものです。  
This information board is made with subsidy from the Letters P.O. Campaign of Japan Center for Local Autonomy.  
此案内板の制作は那覇市（指定法人）総合センターの那覇市歴史博物館の協力を得て行われました。















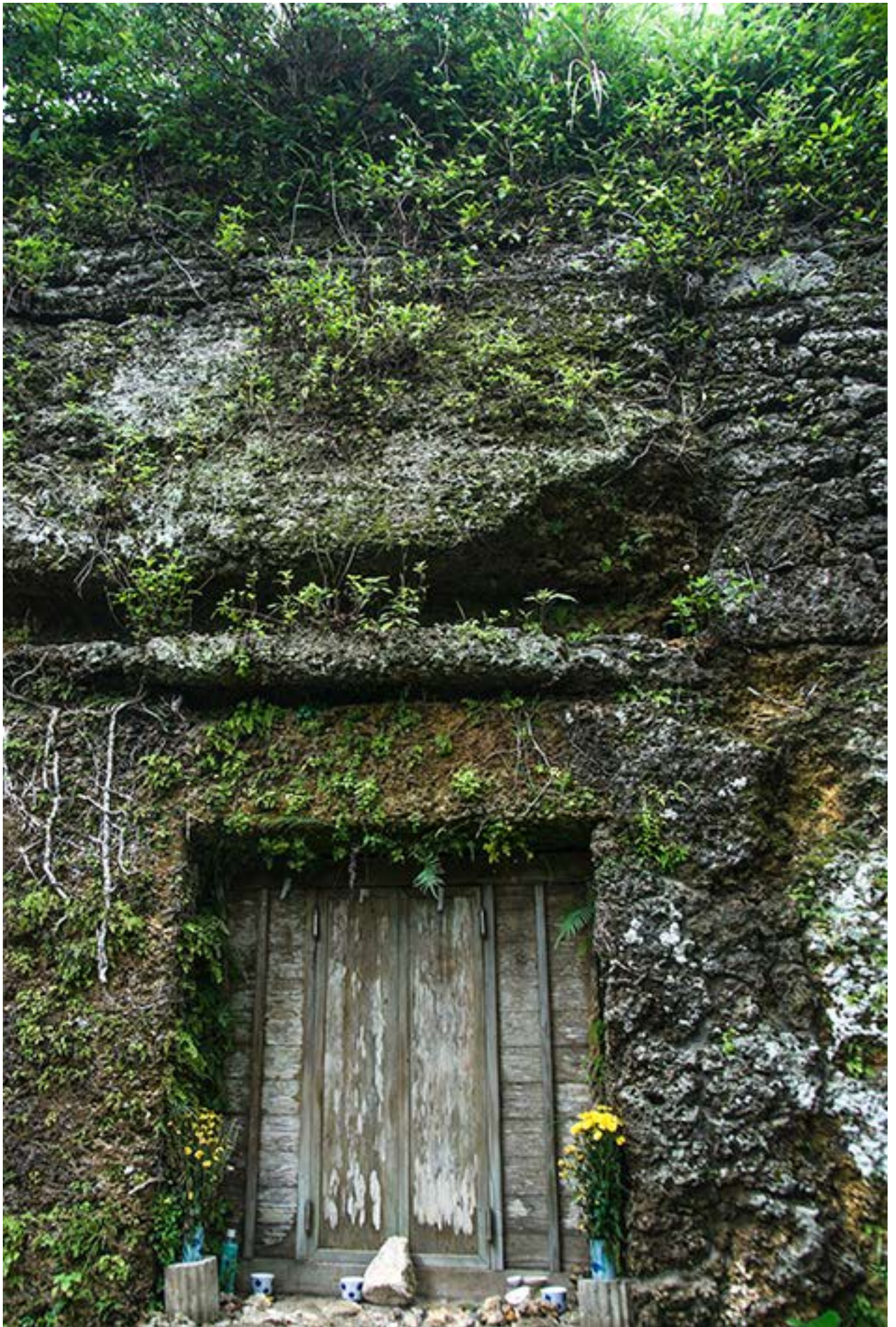
# 世之主の墓沿革

この墓を方言でウツと称している。西暦紀元一四〇〇年頃琉球国には中山、南山、北山の三王が割拠し、本島は北山玉の領分に帰していた。北山の二男真松千代世之生(島主)となつた人はこの北山玉の姫で名前を真照と申している。その奥方は中山玉の姫で名前を真照間共之前と称した。琉球三山は威勢を争ひ、たゞたひ合戦のすえ中山王は南山を隔れ、北山も攻め滅ぼした。世之主は頼りない沖永良部でうつつとお過しがされていたところへ中山玉の和睦の船が救援与ら、これに航した。世之主は北山玉の二男であるから、小島をもつて、大國には敵し難いと直ちに奥方を始め嫡子と差し違えて御自害なされたと言われ、いゝる。この墓は世之主と奥方嫡子の墓で中央に御三名が並び、西隅には家臣の四天王後蘭孫八、屋者真三郎、西目国内兵衛、國頭弥太郎の遺骨が納められてある。お墓の造り方は方形納骨堂で純琉球造りで、詳かたない。昭和四十年十二月十日重要史跡として、鹿児島県文化財に指定された。

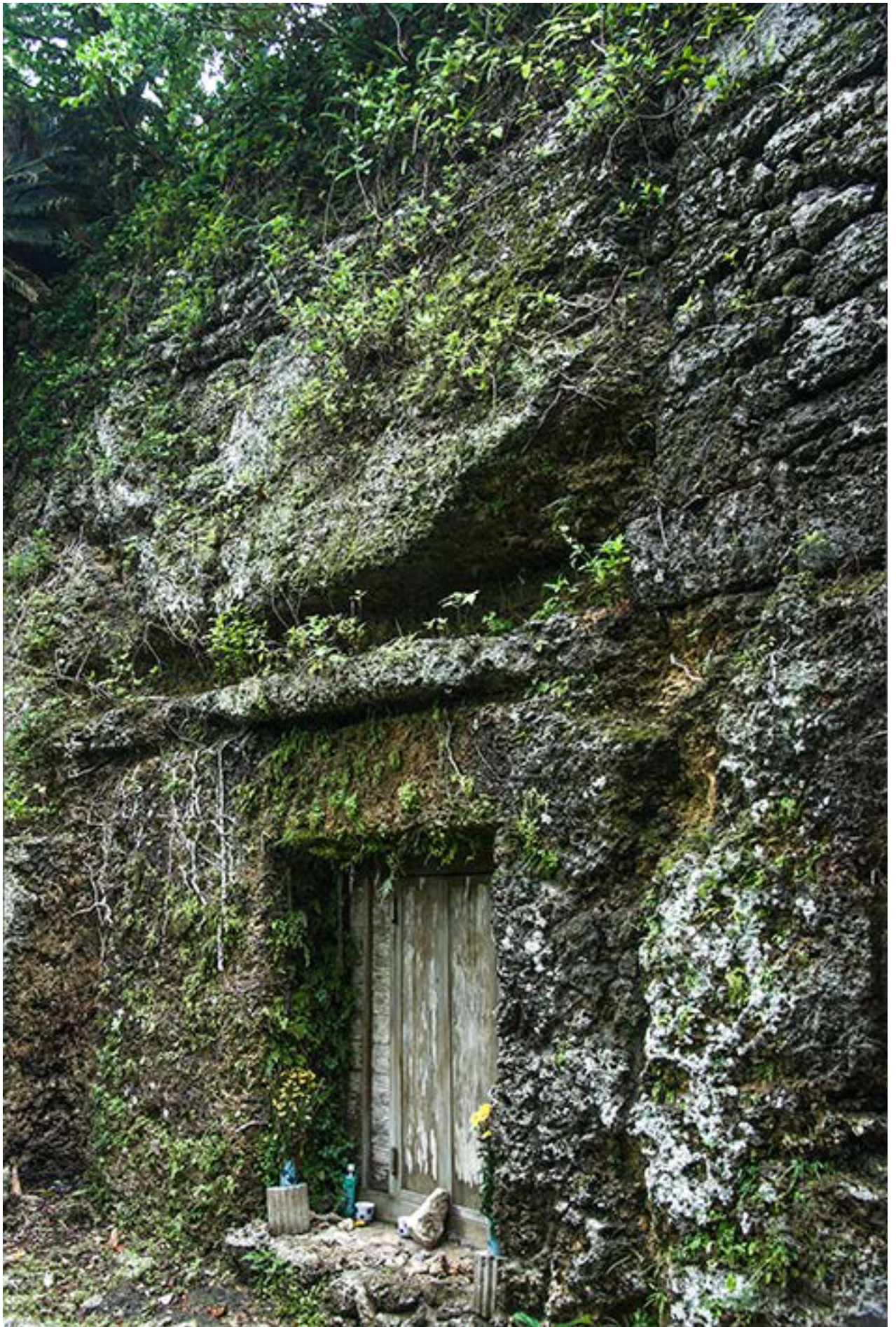
和泊町教育委員会







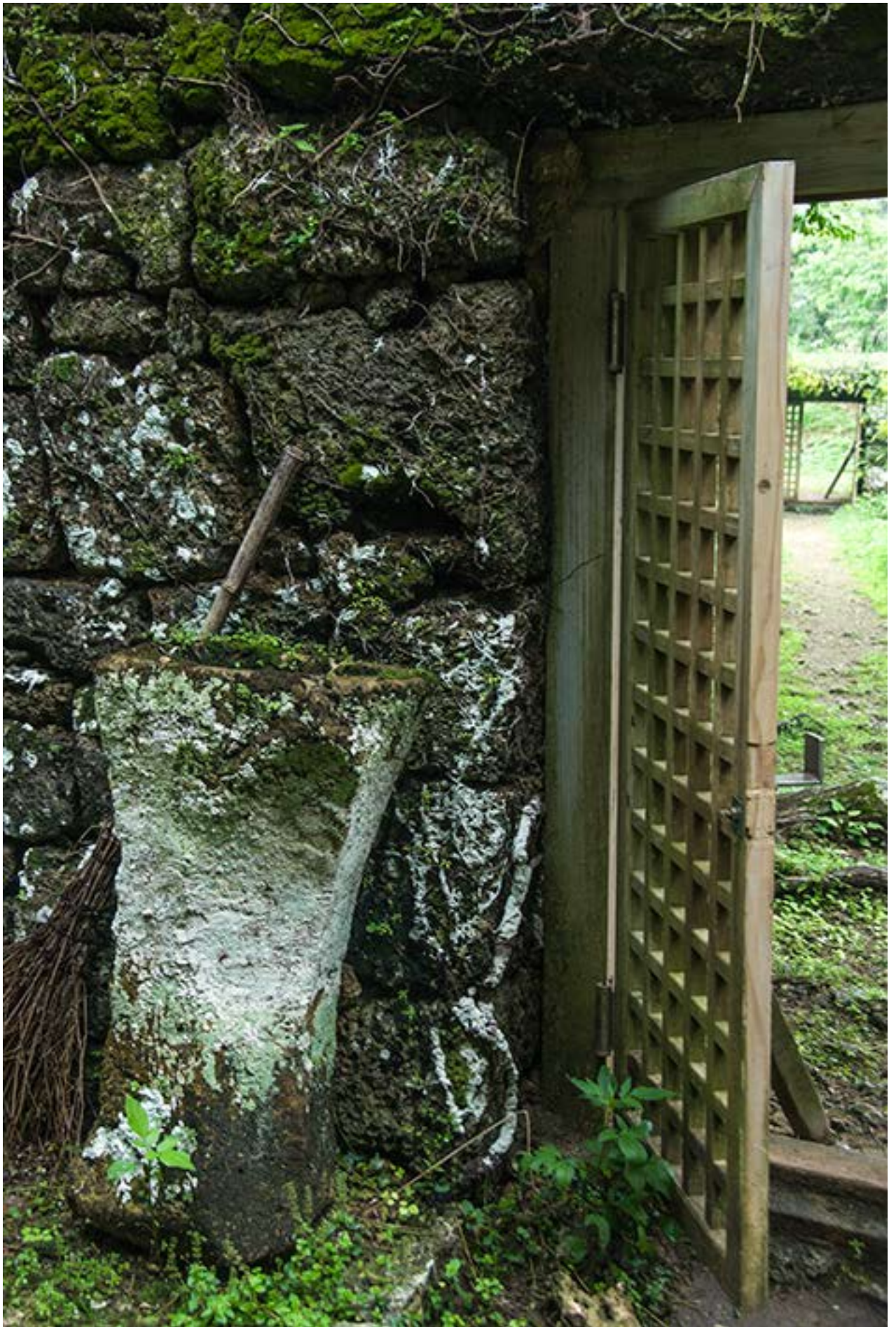


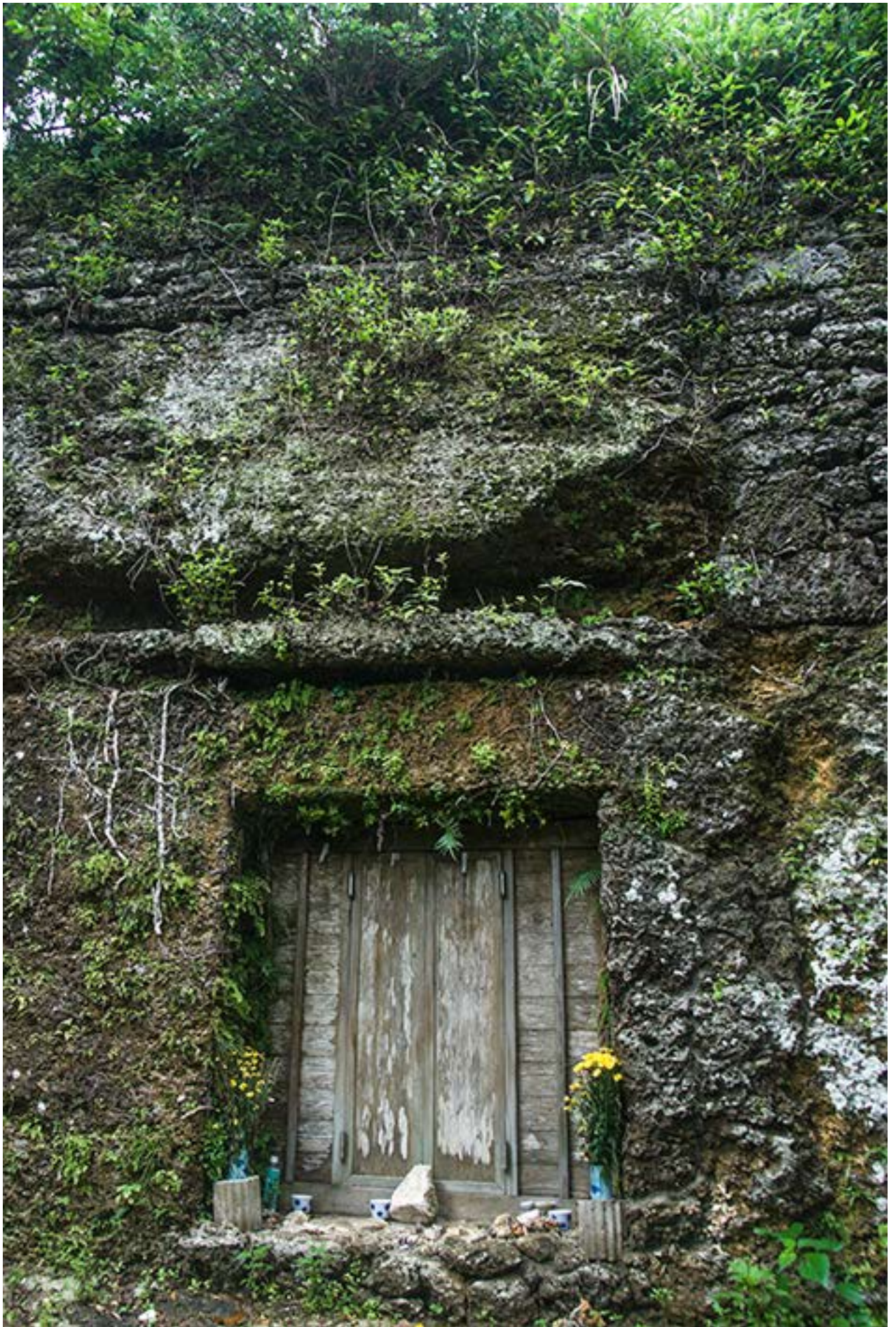


































#### No5 フバドー

世の主が沖永良部島で最初に館を構えたのがこの地であったと伝えられている。

フバドーは「ピロウの茂っていた地」という意味であろう。フバ(ピロウ)は沖縄の島々においては、神の降りる樹木であるといわれ、神聖な場所に生えている植物である。

この地も、古くは神祭をした聖なる土地であり、世の主がこの地に館を構えたのは神の加護を得るためであったろうと考える。

あるいは、すでに神祭の場所としては使われなくなったのであろうか。

この地名は、世の主伝説地名や信仰地名として貴重なものである。



















なん しゅう じん しゃ  
南洲神社

西郷南洲翁の遺徳をしのぶ為、南洲翁を祭神として明治35年に建立された。南洲翁は文久2年(1862)島津久光公の怒りにふれて沖永良部へ流罪となり、1年6か月牢屋生活をされた。翁は常に牢中に正座して読書に耽り、国外に少年達を集めて古今聖賢の道を談し、また、凶年に備えての社会法を教えて島利民福をはかるなど偉大な余徳をとどめた。敬天愛人の思想は、この地で完成されたとその道の人々が伝えている。

牢屋跡は橋を渡ってすぐ左にあります。

和泊町











己身ゆの如し幾忠臣  
死に臨み自若きて平日の如し  
天を死心みず人を咎めず  
(真山三十輝世)







### 文跡 共同井戸 (シンカゴ)

水は人が生きていく上で 欠くことの出来ない大切なものである。その昔 私達の祖先は 暗川や 湧水など水のあるところを求めて生活し 集落をつくった。家庭で使う水は桶で運ばなければならず、女性は大変苦労した。屋敷内の大きな木の幹に桶つらをしばり、したたり落ちる雨水を 根に貯めて生活用水とした。

安定した水を得るためには 井戸を掘るのが一番であったが 多額の工事費がかかるため、10戸前後の共同井戸が 掘られた。手々知名には この他4ヶ所 (フクザトッゴ、ウシュントッ子ゴ、ウイナカスクゴ、アーボ家メホー) があり 昭和40年代まで利用された。

平成19年12月

手々知名字











































